

平成 28 年度 第 3 回 行財政構造改革審議会 議事要旨

1 日 時

平成 29 年 2 月 13 日 (月) 16 : 00 ~ 17 : 30

2 場 所

兵庫県公館 第 1 会議室

3 出席者

(1) 委員

五百旗頭会長、井堂委員、稲垣委員、齋藤委員、藤浪委員、正木委員 (6 名)

(2) 県

井戸知事、金澤副知事、荒木副知事、大久保防災監、赤木会計管理者、梅谷理事(地域創生・女性担当)、西上企画県民部長、山口政策創生部長、太田健康福祉部長、片山産業労働部長、新岡農政環境部長、秋山環境部長、糟谷県土整備部長、小南まちづくり部長、石井公営企業管理者、八木病院局長、高井教育長、平野代表監査委員、太田人事委員長、竹迫警務部長 (20 名)

4 議題及び議事概要

(1) 「最終 2 カ年行革プラン (案)」及び「審議会意見 (案)」について

委員からの主な意見は次のとおり。

(全 般)

- ・ 企業業績や為替動向等の不安定要素によって県税収入に影響を受ける中、平成 30 年度の財政目標が達成される見通しであることは評価する。
- ・ 兵庫県の強みである五国の多様性ととともに、県全体の特徴を大きくアピールしていく必要がある。
- ・ 今後も行財政が厳しい状況が続くことが予想されるだけに、県民の知恵や活力を県政の中に十分に活かしていくという視点が必要。

(選択と集中)

- ・ 例えば、高齢者対策でカットした予算を少子化対策に回すなどメリハリをつけることが、選択と集中である。どの分野に重点を置いて取り組むのか、県政の方向性をはっきりと示していくべき。

(定 員)

- ・ 再任用職員の活用については、自身の能力を適切に活かせるという面での「適正配置」と、ノウハウが継承されるという面における「適正配置」の視点に留意してほしい。

(公 社)

- ・ 平成 20 年度以降、公社の人員がかなり減っているが、適切な行政サービスが提供できるのか懸念する。

(使用料・手数料)

- ・ 県立美術館などの県立施設の使用料について、高齢者減免要件を見直して高校生の観覧料を無料化することは評価でき、これからも若者に対する施策を大切にしてほしい。

(地域創生)

- ・ 兵庫県は広く、東西、南北格差が歴然としている。県内格差を是正する取組を考えていくべき。
- ・ 若い共働き世代に対して、家事や育児を代行するサービスの提供などの支援を検討してほしい。
- ・ 充実した教育環境は、子育て家庭が県内に移転する重要な要素である。こうした観点も考慮しながら、魅力ある兵庫の教育を推進してほしい。
- ・ 女性にとって働きやすく魅力のある企業の誘致や、出産や育児を終えた女性の再就職に際してのスキルアップの支援を検討してほしい。

(多様な人材の活躍)

- ・ 男性よりも女性の方が変化に富んだ考え方をしたり、果敢にチャレンジすることもある。女性が活躍することで、兵庫県の良さや多様性が輝いていくと思う。
- ・ 非正規職員が正規職員に転換するためのスキルアップにつながる取組をする必要がある。

(県政 150 年)

- ・ 県政 150 年の節目に、防災、安心安全にかかわるシンボリックな事業を世界に発信する取組をしてほしい。

以上